

特集

ペルーへ天体望遠鏡を贈る会の活動

石田俊人（兵庫県立大学天文科学センター）、
Jose Ishitsuka（ペルー地球物理研究所・天文学部・ワンカイヨ観測所）、
伊藤洋一（兵庫県立大学天文科学センター）、上野 悟（京都大学飛騨天文台）

1. はじめに

「ペルーへ天体望遠鏡を贈る会」は、1999年3月に立ち上がり、2014年12月に最終的な引き渡しを行いました。天文教育普及研究会を始め、多くの団体、関係者等に呼びかけ人に加わっていただいていたこの会の活動について、ご紹介ならびに、ご報告をさせていただきます。

なお、本来の代表である黒田武彦氏が体調を崩したため、著者らは何らかの形で残っていたものを頼りに引き継いでいますので、詳細がわからない部分もあることを、あらかじめご了解いただけますようお願いいたします。また、非常に多数の団体、関係者等に呼びかけ人に加わっていただいておりますので、今後、あちこちで、同様の内容のご報告をご覧になる方も多いかと思います。この活動の広がり大きさを示すものとお考えただいて、繰り返しにつきましては、ご寛恕いただけますようお願いしておきます。

2. きっかけと広がり

ペルーへ望遠鏡を贈る会の活動が始まったきっかけについては、本来の代表である黒田氏がいろいろなところに文章を寄せている[1]ので、お読みになった方も多いと思いますが、概略をまとめておきます。石塚睦氏は1957年、ペルーに太陽コロナ観測所を作るために現地に渡りました。観測所の適地を求めてアンデスを駆け巡り、ようやく出来上がって観測を開始したところで、観測所はゲリラに爆破されてしまいました。しかし石塚氏はそのような逆境にめげずなお、観測所の

再興、そして新たに指導者育成や青少年教育のための国立教育天文台を構想されていました[2][3]。そのことを森本雅樹氏から聞いた黒田氏は、石塚氏の天文学への情熱に感動し、60cm望遠鏡を寄贈することを目指して、この活動を開始しました[1]。当初の目標は、以下のように設定されていました。

目標額：2,000万円

募金単位：一口5,000円

募集期間：2000年2月28日

使途：60cm望遠鏡の製作と組立・調整

なお、募集単位については、初期に書かれた文章では金額の多寡に関わらずお願いしたいとなっているものもあります。また、募集期間も、その後「目標金額達成まで」と変わりました。そして、募金いただいたすべての方のご芳名は銘板にして望遠鏡といっしょに贈ることとなりました。

この活動は、呼びかけ人のお一人でもある森本雅樹氏のさまざまな面での協力もあって、先にも書きましたように、大きく広がっていききました[4]。呼びかけ人、協力団体等には多くの方が加わっていただきました。最終的には、協力団体、呼びかけ人リストは以下のようになっています。

社団法人日本天文学会、京都大学宇宙会、東亜天文学会、天文教育普及研究会、全国の天体観測施設の会（現在、日本公開天文台協会）、兵庫県立芦屋高等学校あしかび会、兵庫県立西はりま天文台公園（現在、兵庫県立大学天文科学センター）、小田稔、北村正利、小暮智一、伊藤芳春、京都大学端艇部OB会有志、

古在由秀、小平桂一、小松左京、富野由悠季、
萩尾望都、福島登志夫、森本雅樹、柳家小ゑ
ん、寮美千子、渡部潤一、面高俊宏

(いずれも敬称略)

ご寄付も、多様な方からいただきました。
関係個人の他に、天文同好会や、大学・高校
での天文関係部、地元を中心としたさまざま
な企業がお名前を連ねています。さらに、ペ
ルーからの転校生があった、たつの市の小学
校からの寄贈もありました。西はりま天文台
を来訪した団体が、その場でいくらかずつ出
し合ってご寄贈くださった例もありました。

3. 会計状況

ペルーに天体望遠鏡を贈る会全体の会計
状況は以下のようになっています。

表1 ペルーへ望遠鏡を贈る会会計まとめ

	項目	金額
収入	寄付	¥12,723,207
	合計	¥12,723,207
支出	60cm 望遠鏡本体	¥12,558,217
	手数料	¥2,354
	望遠鏡追加部品	¥40,542
	設置費	¥2,094
	芳名板	¥120,000
	合計	¥12,723,207

黒田氏がすでに発表していたものとは不一
致があるのですが、書類で確認できたものは
上記となりました。ご寄付いただいた金額か
らすると、はなはだ簡易なまとめで申し訳な
いのですが、ご了解いただけますようお願い
いたします。

収入については、当初の目標金額には達し
ていませんが、寄贈した望遠鏡を製作してい

ただいた西村製作所に、たとえば現地で他の
用件がある際に合わせて設置作業を行うとい
った形で経費の削減をしていただいくことな
どで、対応いたしました。また、記名等のあ
ったご寄付は 695 組ありました。他に、匿名
希望、募金箱への投入等が多数あります。

支出については、望遠鏡本体以外の用途を
ひと通り記しておきます。手数料は送金など
の経費です。望遠鏡追加部品は、実際の設置
の際に必要なになって追加されたものです。望
遠鏡のウェイト、および入射口用蓋を購入し
ました。設置費は、設置の際に必要なとなった
電源コンセントを追加したものです。

4. 寄贈望遠鏡概要

寄贈した望遠鏡は以下のようなものです。

口径：60cm

主鏡焦点：F/3 1800mm

合成焦点：F/10 6000mm

架台：赤道儀

口径は石塚睦さんの強い希望で決まったと
お聞きしています。

60cm 望遠鏡は、2010 年 3 月に京都大学が
国立イカ大学太陽観測所に移設した太陽観測
望遠鏡と共に当観測所に輸送され、2013 年 1
月、京都大学と西村製作所による太陽望遠鏡
整備作業に合わせて、同観測所内で組み立て
調整作業が行なわれました。設置終了時の状
況を画像でご紹介します（図 1）。

5. 贈呈式

設置をしていただいた後、なかなか最終的
なまとめができておりませんでした。2014
年 12 月 20 日によりやく、寄付をいただいた
際にお約束しておりました芳名板を作成し、
石塚睦氏のご子息のホセ・イシツカ氏にお渡
しするという形で、贈呈式を行い、これをも
ちまして一応の区切りとさせていただくこと



図1 設置された 60cm 望遠鏡。中央の車椅子を利用しておられるのが石塚睦さん

としました。当日は、年末の忙しい時期ということもあり、あまり多くの方に参加いただくことはできませんでした。また、寄付を募った期間が長かったこともあってか、限られた時間の中では西はりまからは連絡がつかなくなっていた方もおられました。

会の内容としましては、会計のご報告、ペルーへの輸送と設置の経緯、イカ大学での今後の計画の紹介などを行いました。また、ペルーとネットワークで結んで、イカ大学理学部長および石塚睦氏よりメッセージをいただきました。出席者が多くなかったこともあり、出席者一人ひとりに、石塚睦氏とネットを通じてではありますが、やりとりしていただくことができました。



図2 贈呈された芳名板と贈呈式の出席者一同

6. 今後

寄贈された望遠鏡は、国立イカ大学内ですでに使用が始まっています。今後も有効な活用を継続していくため、更には石塚睦氏の当初からの構想である教育天文台の建設とその天文台への望遠鏡の移設を実現させるためには、引き続き日本・ペルー間の交流と協力が必要と思われます。今後とも、みなさまから、ご意見、ご鞭撻、ご支援などいただけますようお願いいたします。

文 献

- [1] たとえば、黒田武彦 (1999) 『ペルーへ天体望遠鏡を贈る活動にご協力ください』 宇宙 Now, No.109 や 黒田武彦 (1999) 『ペルーへ天体望遠鏡を寄贈するためのご支援のお願い』, 天文月報 92(6), pp.322-323 など
- [2] 石塚 睦 (2010) 『ペルーでの五十年とこれから』, あすとろん 第 10 号, pp.33-43. http://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp/hosizora/astron/astron10/astron10_P33-43.pdf
- [3] 石塚 睦 (2014) 『失った時間を取り戻そうと ～ペルーの天文学と共に～』, 天文教育, 26 (1), p.16.
- [4] 『五月夜の星光』(兵庫県立西はりま天文台公園 20 周年記念誌), 世界への広がり of 項, p28.

石田 俊人